

2019年1月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

## 「活・人・経・営<sup>®</sup>」コラム第72回

### <イノベーションが咲く経営>

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

新しい年を迎えて、新年という節目に心機一転、新たな想いで企業経営に臨んでおられる方も多いことと存じ上げます。弊社もコンサルティングや研修の「場」を通じ、クライアントの展望を開くイノベーション創出ご支援に向け、更に切磋琢磨して参ります。

「品質は人質」という言葉の通り、人の持つ意識や技術が競争力や信頼のおける品質を生み出します。モノやサービスを創造することに対する心構え(姿勢)や日々の取り組み方の大事さを表現しています。日本のメーカーは今迄、ここを強みとして世界の競争力を生み出して参りました。

最近、モノ造り品質のトラブルが多発していますが、ここを乗り越えるためには変化する経営環境にしっかりと対応し、新しい価値創造に向けたイノベーションが咲く経営の必要性を私達に示唆しているようです。

本年も昨年同様ご愛顧のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### <日本の読者へ>

日本のリーダーは経営について多くのことをわれわれにおしえてくれた。その考え方を学ぶことで大いに恩恵にあずかった。 ~途中略~

日本人の長期的な考え方、我慢強く思慮深い見方は将来に対する投資活動や戦略、提携関係を維持するうえで日本にとって有効に働いてきた。

日本の産業が持っている我慢強くしっかりと地に足のついたこうした姿勢は、1970年代、80年代においてその産業の成長に大いに貢献した。しかし、今日世界における変化のスピードは飛躍的に高まってきている。インターネットと電子商取引の出現以来、それはいっそう顕著になっている。こんなスピードでものごとが動くのを私はこれまで見たことがない。ビジネスチャンスに恵まれる機会は誰にでも開かれていたかと思えば、すぐに閉じられてしまう。

漸進主義、間に合わせ主義、過去に拘泥する態度をとることの代償は極めて大きい。

— 出典：「ジャック・ウェルチ わが経営(下)」ジャック・ウェルチ、  
ジョン・A・バーン共著 宮本喜一訳 —